

## 「でんきと私」

電気科2年 藤里和磨

電気について考えたとき、自分の生活には欠かせない存在だと思いました。まず、食品を保存するための冷蔵庫、寒さや暑さをしのぐためのエアコンや、服を洗うための洗濯機や、テレビやパソコン、ほかにも毎日何気なく使っている照明や家電製品で、電気の恩恵を受けていると思いました。これらのありがたみを特に感じた時があります。それは停電をした時です。落雷が原因で停電してしまい、数分で復旧したのですがその間真っ暗で、水も出ず、いつも使っているスマートフォンも充電ができずバッテリーが切れて使えませんでした。このような経験からいかに自分の生活にとって、電気が大切か知るきっかけになるとともに、災害などではさらに長時間電気が使えないと思うと日ごろからの対策が必要だなと思いました。

電気は発電所で作られ、送電線を通じて各家庭や企業に運ばれます。発電には火力、原子力、水力、風力、太陽光など様々な方法がありますが、それぞれに利点と課題があります。たとえば、火力発電は安定した電力供給が可能ですが、二酸化炭素を排出するため環境への影響が問題視されています。一方太陽光や風力といった再生可能エネルギーは環境負荷がすくないものの、天候に左右されやすいという課題があります。私たちが電気の使用について考える時、こうした背景も意識することが大切だと思いました。

電気を効率的に使うことは環境保護につながります。例えば使用しない部屋の電気をこまめに消したり、エネルギー効率の良い製品を選んだりして持続可能な未来を築く一歩になればいいなとおもいます。

僕は今回の作文を通じて、電気の重要性和その背景を考えることで、改めて自分の生活で電気が大切なのかを実感しました。これからは自分たち一人一人の意識が社会全体のエネルギー問題の改善につながるのだと思って電気を大切にしていきたいです。